

2009年度司書部 夏期研修会

## 「教科書を知って、蔵書に活かす！」

日時 : 8月17日(月曜日)

場所 : 大阪府立花園高校 図書館

参加者 : 54名(府立42 私学10 衛星都市立2)

### はじめに

近年、校務の多忙化や退職不補充による学校司書の削減のため、地区活動の低下が問題視されていた。各地区の活動だけで、夏期研修会や冬の研究集会を支えることが難しいとの意見があり、2008年度司書部総会にて研修委員会の立ち上げが提案された。今年度当初に研修委員を募集し、研修委員会を創設する。

### 1、内容の設定について

研修委員会では、様々な情報を共有し色々な実践を勉強しながら、スキルアップする必要があると考えている。今回は、シラバスと教科書のチェックのしかたから、それらを活かした図書館活動の実践を聞き、レファレンスや特集・展示について深めていくこととなった。教科書の単元に関する資料を洗い出して、自校図書館蔵書の状態を確認し、本の紹介や展示を行っている学校の実践を聞き、参加者でテーマ展示を実際に作成するという内容で研修会を企画した。各学校で役に立つ展示用グッズも同時に作製すれば、イメージしやすくなり、図書館活動に活かせるのではないかということになった。

### 2、実践報告

その1、教科と連携した図書館活動「単元科目リストを作ろう」

発表 宮地恭子さん(四條畷高校)

カウンター(学校)によって生徒の質問がぜんぜん違う。前任校では「おもしろい本ない?」といった「楽しみの読書」の対象になる本のレファレンス依頼が多かったが、本校では教科書に出てくる著者の本を探しに来る生徒が多い。教科書には作品の一部しか掲載されないことも多いのでその作品を読むこと、また同じ著者の作品を読むように先生から指示が出る。教科書に出てくる本ぐらいいは学校の図書館に必要なと思った。リストを作り始めて気づいたのは、リストを作ることでどこにどんな本があるか、自館の蔵書構成がよく見えるということである。必要な本、購入しなければならない本等、選書に非常に役に立っている。

これまで、先生方に「推薦図書があればお知らせください」「レポート課題を出すならお知らせ下さい」と言ってもあまり効果がなかった。しかし、リストを作って担当の先生に配ると図書館にある本が先生にもわかりやすいので、次の授業に必要な本をリクエストしてくれるようになった。

リストとは別に、4月初めの職員会議で「先生方への利用案内」として図書館サー

ビスのプリントを配布している。また、多忙な先生方のために各準備室への配達サービスも行っている。配布したリストを見ながら電話 1 本で司書室に連絡することができ、それらは各準備室へ届けられる。準備室では日ごろ図書館にあまり訪れない先生方からも「次はこんな授業をするから本をそろえてくれる？」等の要求も出てくるようになった。当然そのときの要求にもこたえている。これらの本が先生方から生徒へどんどん紹介されるので利用の大幅増につながっている。

四條畷の国語と社会科の具体例が示された。まず教科書を読んで国語なら著者の他の作品、内容に関係する写真集や図説などの参考資料をリストアップする。出来上がったリストは担当教科の先生に配布する。リストはもちろん図書館にも常備する。生徒からもリストがほしいという要望があったので、ホームページにもアップしている（参照：大阪府立四條畷高等学校ホームページ→図書館→資料）。授業のバックアップをすることによって先生方に図書館の存在がアピールできる。コーナーとして入試対策の「論文コーナー」と「近代小説を読む」を常設している。

「論文コーナー」は、進路の先生に相談したり、受験校の出題傾向を調べてリストを作成した。生徒の質問に答えるためにはよく本を知らなければならない。リストに掲載した本を並べ、紹介文のリストも作成する。リストだけ見に来る生徒もいる。はじめは 3 年生を対象に作成していたが、入試を見据えて 1 年生から指導することになり、入門的な本から徐々にランクをつけてリストを作ることにした。「近代小説を読む」も本の紹介を含めたリストを作成し、コーナーを設置した。先生方とのコンタクトが増えると、依頼も増えてくる。

次はシラバスを見て授業が始まる前にコーナーを設置し、先生に伝える。授業で生徒に紹介してくれるので生徒の利用につながる。リストを作ることによって、生徒からのレファレンスに答える準備が出来る。また、教科書を見ることで今どんな授業をしているかを知ることが出来る。リストやコーナーがよく使われるまでには 2～3 年かかったが、図書館と教員との信頼関係が生まれると、次々と図書館への要求が届くようになった。一度作ると、次年度からは追加するだけで済むので楽である。

自校の図書館の蔵書構成が見えてくるとともに、足りない本は団体貸出で地域の公共図書館や府立の中央図書館を利用している。これが非常に助かっている。近隣の学校間での相互貸借によって複数冊準備することもできるので、豊富に資料を提供できるようになった。

#### < 質疑応答 >

Q、リストを教えてほしい

A、ホームページで見ることができるので見てほしい。

Q、生徒からのリストのプリントアウトの依頼は？

A、ホームページにアップしているので生徒は家で見ている。

Q、展示の本は貸出しているのか？

A、貸し出している。相互貸借で多くの資料の準備が出来るので貸出しが可能。



Q、団体貸出での本の受け取りはどうしているのか？

A、府立中央図書館から地域の市立図書館に本が配送されてくるので、市立図書館まで自転車でとりに行っている。

Q、他館から借りた本が返却されないことはないのか？

A、延滞はあるが、なくなった本はない。

（四條畷高校だけでなく、交野高校や信太高校でもなくなっていない）

Q、評論のA～Cはなぜ分けてあるのか？

A、先生と相談して1年から3年まで対応するため。

Q、紹介文もホームページにアップしているのか？オリジナルか？

A、紹介文はアップしていない。オリジナルなので作成に時間がかかる。近代史は2ヶ月かかった。

Q、常設のコーナーは？

A、「評論」「文学史」「進路」の3つ。それ以外は2週間ぐらいで回転。7箇所ほどあるが、教科の依頼を受けて作成していくので、変えざるをえない。

## その2、図書館を楽しく！魅力的に！「展示グッズを作ろう」

発表 山本真由美さん（交野高校）



図書館担当者である私たちはできる限り図書館の情報を利用者に紹介してきた。今回それと同時に図書館の活動をアピールする意味も兼ねてコーナーなどの展示に使うグッズを作る。

展示は図書館からの発信であり、外への働きかけである。背表紙だけではつまらないし、図書館にも変化がない。今ではパソコンを使ってポスターも簡単に作ることが出来るので外にも貼り出し

ている（近隣の学校で使いまわしたり、データだけを送って共有することも出来る）。テーマを決めて本棚を見ることは蔵書を見直すことにもなる。これは選書にも役に立つ。生徒とのコミュニケーションが増え、展示をすることで、生徒からの情報も得られる。テーマ展示をすることによって、背表紙だけ見せて眠っている古い本を新しい本と一緒に紹介することが出来、利用につながる。

自校の蔵書では無理がある場合は近隣の学校の協力や、公共図書館に出向き団体貸出を受けることもできる。公共図書館と協力することは司書のスキルアップにもつながるし、資料に対する勉強にもなる。今年度、府立中央図書館では試験的に一部の学校で団体貸出を実施しているが、範囲を広げる意向を聞いている。高校所在地の市立図書館の協力を得ることで、府立中央図書館の本も借りることができる。もっとたくさんの学校で、公共図書館と協力関係が作れば良いと思う。

## <展示のポイント>

### 1、 基調色を決める。

注意することは、各学校の図書館でベースになる色を決めてあまり沢山の色を使わないこと。ベースを決めると統一感があり、図書館全体がきれいに見える。展示台のクロスは柄物より無地のほうが本が引き立つ。

### 2、 パターンを決める

手始めは あまりテーマに悩まない。

気楽にはじめる。

小さなものから 例えば映画など、新聞の広告等使って1冊だけ紹介する。



“映画&ドラマの本”などはコーナーを作っておいて旬の本のみ入れ替えるのも便利。図書館に来る生徒が、“あれ、また違う!”と、変化を楽しめるようにする。

## 3、 実習

◎午後は9つのグループに分ける。

◎前半の5グループはそれぞれ指定された単元の参考資料を花園高校の図書を利用して作成する。(どうしても少ない場合はネットで検索をする)

◎後半の4つのグループは先に展示グッズの作成を行う。

◎途中で前半・後半の作業を交代して、リストと展示グッズを作成する。

◎単元リストと展示グッズを使って、実際にコーナー展示を作る。

◎各班で作成したものを発表する。

## <作成した展示グッズ>

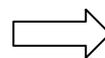


← 厚紙を色上質紙でくるむ。2枚を屏風のように繋ぎ合わせてポスター掲示などに利用する。(研修会ではブッカーがかけられなかったが、ブッカーをかけて使うと何回でも使い回しが出来る)



← 牛乳パックをつかった展示台

色画用紙を2枚繋ぎ合わせて下地を作り、ブッカーをかける。プリント類を何度でも張替えすることが出来る



<各班の単元リスト>

	教育出版 (新版現代文)	三省堂(国語総合)	東京書籍 (精選現代文)	第一学習社 (標準古典)
詩歌	竹(萩原朔太郎) 永訣の朝(宮沢賢治) のちのおもひに (立原道造)	その子二十:短歌 十五首(与謝野晶子ほか)		
小説	舞姫(森鷗外)	富嶽百景(太宰治)		
評論	脳と創造性(茂木健一郎)	命はだれものものか(柳澤桂子)	ハイテク化と人間のゆくえ(養老孟司)	
古典				源氏物語(紫式部)
				枕草子(清少納言)
				万葉集

#### 4、発表

各班でつくった展示について、工夫した点や難しかった点、こだわった点などを中心に発表した。自校の図書館ではないので蔵書構成もわからず大変だったけれども、それぞれに創意あふれる工夫がされていて勉強になった。参加者が思いついて作成したグッズもあり、たくさんの司書の知識やアイデアが発揮されるものとなった。



<発表作品より>

